

令和6年3月31日

完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 広島県広島市中区基町9-42
管理機関（代表の機関）名 広島県教育委員会
代表者名 教育長 平川 理恵

令和5年度マイスター・ハイスクール事業に係る完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和5年4月1日（契約締結日）～令和6年3月31日

2 管理機関

①管理機関（市区町村・都道府県）

ふりがな	しょうばらし
管理機関名	庄原市
代表者職名	市長
代表者職名	木山 耕三

②管理機関（産業界）

ふりがな	しょうばらしょうこうかいぎしょ
管理機関名	庄原商工会議所
代表者職名	会頭
代表者氏名	佐々木 満

③管理機関（学校設置者）

ふりがな	ひろしまけんきょういくいいんかい
管理機関名	広島県教育委員会
代表者職名	教育長
代表者職名	平川 理恵

3 指定校名

学校名 広島県立庄原実業高等学校

学校長名 栗田 正弘

4 事業名

地域の未来社会実装型農業をデザインするアグリビジネスプレイヤーの創出
～ Think Globally、Act from Shobara ～

5 事業概要

社会の変化や次世代技術に柔軟に対応しつつ、地域資源を有機的に繋げることで地域と産業界、専門高校が一体となって、地域の未来創造に貢献できる人材を育成する。具体的には、庄原市、庄原商工会議所及び県立広島大学等と連携し、農林業が基幹産業である庄原市のアグリビジネスプレイヤー育成システムと、それを実装するための「庄原ひとづくりコンソーシアム」を構築する。

同時に内外リソースを有効に活用した教育課程等を開発し、地域を学習フィールドとした「未来思考型PBL」を展開することで、生徒に主体性や課題解決能力を身に付けさせ、ひいては地域に貢献し次世代に対応できるクリエイティブな職業人材を育む。

6 学校設定教科・科目の開設、教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している ・ 開設していない
- ・教育課程の特例の活用 活用している ・ 活用していない

7 意思決定機関の体制（マイスター・ハイスクール運営委員会）

氏名	所属・職
本平 正宏	庄原商工会議所・専務理事
和田 隆裕	ひろしま農業協同組合庄原地域本部・常務理事
荻田 信二郎	公立大学法人県立広島大学生物資源科学部・学部長
加藤 武徳	庄原市企画振興部・部長
向井 雅史	広島県農林水産局・農水産振興担当部長
佐々木 誠	広島県立農業技術大学校・校長
東 直美	庄原市立庄原中学校・校長
阿部 由貴子	広島県教育委員会事務局学びの変革推進部・部長
栗田 正弘	広島県立庄原実業高等学校・校長

8 事業推進機関の体制（マイスター・ハイスクール事業推進委員会）

氏名	所属・職
甲村 浩之	公立大学法人県立広島大学生物資源科学部地域資源開発学科・教授
黒木 和彦	庄原市企画振興部農業振興課・課長
柴山 勝利	広島県農林水産局農業技術課・課長
西森 晋補	広島県立農業技術大学校・副校長
古川 充	地域経営コンサル 合同会社なるさ・代表社員兼地域活性化伝道師（内閣府） 広島県立庄原実業高等学校・マイスター・ハイスクールCEO
谷口 浩一	株式会社庄原市農林振興公社・代表取締役 株式会社 vegeta・代表取締役 広島県立庄原実業高等学校・産業実務家教員
小野 裕之	広島県教育委員会事務局学びの変革推進部高校教育指導課・課長
部屋 聡	広島県立庄原実業高等学校・教頭
板垣 哲司	広島県立庄原実業高等学校・教諭（事業研究開発主任）
藤岡 勇貴	広島県立庄原実業高等学校・教諭（事業総務主任）

9 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程（令和5年4月1日～令和6年3月31日）											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営委員会		● 第1回									● 第2回	
事業推進委員会			● 第1回					● 第2回				
コアメンバー会議		● 第1回	● 第2回		● 第3回		● 第4回			● 第5回		
ざっくばらんな会（※）						● 第1回	● 第2回		● 第3回			
伴走者会（※）			● 第1回	● 第2回	● 第3回				● 第4回		● 第5回	● 第6回
外部機関との橋渡し（※）						● 1件	● 2件					
魅力発信								● 2回	● 1回		● 発表会	

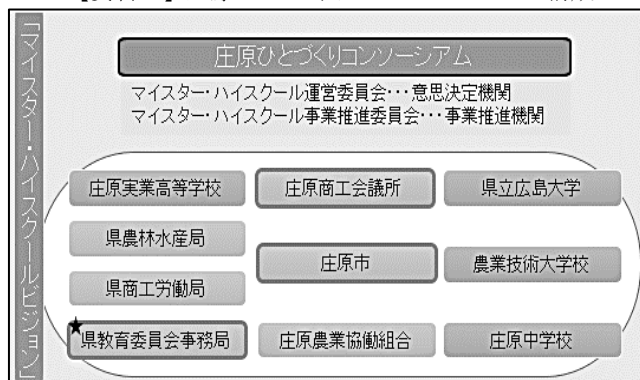
（●：実施、※：令和4年度から実施）

(2) 実績の説明

事業実施初年度となる令和3年度は、地域の持続的な成長を牽引する職業人材システムの構築に向けて「庄原ひとづくりコンソーシアム」（資料1）を立ち上げ、目指す生徒の姿（資料2）と高校段階における人材育成に向けた取組（資料3）を「広島県立庄原実業高等学校マイスター・ハイスクールビジョン」（以下「ビジョン」という。）に示した。

令和4年度は、ビジョンに示した具体的な取組を「庄原ひとづくりコンソーシアム」委員と学校との連携の下、進めた。管理機関は指定校が地域や社会とともに教育課程を見直し、新しい時代に求められる資質・能力を産学官一体で育む共創の場として、「マイスター・ハイスクール運営委員会」及び「マイスター・ハイスクール事業推進委員会」を開催し、「カリキュラムの刷新・体制づくり・魅力発信」の3つの柱で支援を行った。

【資料1】庄原ひとづくりコンソーシアムの構成



令和5年度はマイスター・ハイスクール運営委員会、マイスター・ハイスクール事業推進委員会を開催し、「カリキュラムの刷新・体制づくり・魅力発信」の3つの柱で引き続き支援を行うとともに、事業の推進に向けて本県独自に設置した「コアメンバー会議」、「ざっくばらんな会」、「伴走者会」において次年度以降の自走化に向けた検討を重ねた。

県教育委員会では、事業において構築した産学官一体型学習プログラムである「未来思考型PBL」（資料4）を事業指定終了後も継続できるよう、「マイスター・ハイスクールCEO」に相当する「産業教育コーディネーター」や、「産業実務家教員」を県事業として設置し、支援することについて検討を進めた。

【資料２】「マイスター・ハイスクールビジョン」に示した目指す生徒の姿

地域の未来社会実装型農業をデザインするアグリビジネスプレイヤー 豊かな心と主体的に学ぶ姿勢を身に付け、農業の専門分野を究めつつ、身近な物事に対する課題意識を持ち、新たな価値を提案するとともに、地域や社会の持続的な発展に貢献しようとする生徒。

【資料３】「マイスター・ハイスクールビジョン」に示した取組

① 産学官一体型のカリキュラム開発 ② 校内体制の充実 ③ 教職員の資質向上 ④ 外部人材の活用 ⑤ 共同研究・共同施設利用 ⑥ 魅力発信

【資料４】産学官一体型学習プログラム「未来思考型PBL」

学習プログラム (対象学年)		学習目標	学習内容
I	キックオフミーティング (1年)	➤ 地域や社会の未来を創造し、3年間かけて「未来思考型PBL」に取り組むことを理解する。 ➤ プロジェクトに対する興味・関心を高めるとともに、未来を創る当事者は自分自身であるという自覚を持つことができる。	「未来思考型PBL」のビジョンを共有した上で、「未来」をテーマに外部講師の講演を実施する。
II	グローバルデザインThinking (1年)	➤ デザイン思考により自身と世界と地域を知り、それらと自分との関わりについて考えることができる。	地域の課題解決が世界の課題解決にも繋がることに気付かせ、「未来社会を創造するために、これからどのような資質・能力を身に付ける必要があるか」生徒に気付かせる。
III	フィールドリサーチ (1年) (2年)	➤ 地域の専門家へのリサーチを通じて、リアルな課題を見つける中で、自分自身の興味・関心に気付くことができる。 ➤ ICTを活用して多角的に情報収集を行い、アポイントメントやインタビュー等に主体的に取り組むことができる。	地域の専門家の声に耳を傾け、地域の課題と自身のキャリアビジョンを結び付けながら、3年次で取り組む「課題研究」の研究テーマを練る。情報活用スキルを高め、リサーチ先の決定、アポイントメント、インタビューに向けてICT等を活用して主体的に取り組ませる。
IV	アグリビジネスアイデアソン (1年) (2年)	➤ プロジェクトの計画立案に向けて必要な知識や技術を収集し、その概要をまとめ、外部講師に提案することができる。 ➤ 外部講師の助言を得て、プロジェクトの妥当性を高めることができる。	プロジェクトの計画を外部講師に発表し、外部講師からの指導・助言を踏まえて研究計画の見直しを図る。
V	STEAM×PBL (3年)	➤ 農業科目や普通科目について体系的・系統的に捉えなおし、専門的な知識や技術とそれらの関係性に気付くことができる。	生徒が「未来思考型PBL」で設定した研究テーマを普通教科の教材として扱い、普通科の教員が担当教科の見方・考え方を通じて、その学問領域がどのような役割を果たしているかを生徒に気付かせるような授業を展開する。 農業科と普通科の学びを往還させる。
VI	アグリビジネスコンペティション (3年)	➤ 他者と協働的に課題解決に取り組む、新たな知を創造しようとしている。 ➤ 自ら社会に参画しようとする意志を持ち、社会を創造する主体としての自覚を高めることができる。	生徒のアイデアや取組が、地域の未来社会創造に役立ち、社会実装化に繋がる取組になることを目指して、大学や企業とのマッチングの場としてプロジェクトの発表機会を設ける。生徒のアイデアを大学や企業に引き継いだり、共同研究に発展させたり、生徒の研究活動の発展性に期待して、大学や企業が研究のサポートを担うなど、課題研究と地域社会との接続を促す場とする。

ア 管理機関による事業の管理・運営方法について

管理機関は、ビジョンに基づく教育課程の刷新と体制づくりに向けて、マイスター・ハイスクール運営委員会、マイスター・ハイスクール事業推進委員会を開催し、持続可能な支援体制の構築を図った。

マイスター・ハイスクール運営委員会（資料５）は意思決定機関とし、ビジョンの達成に向けた取組の進捗管理、評価、改善の方向性について協議を行った。令和５年度は、令和５年５月２６日（金）に第１回、令和６年２月５日（月）に第２回運営委員会を開催した（資料６）。第２回については「令和５年度広島県立庄原実業高等学校マイスター・ハイスクール事業成果発表会」と同日の開催とした。第３学年生徒による「アグリビジネスコンペティション」を見学し、科目「農業と環境」、「課題研究」及び学校設定科目「農業実践研究」で取り組んだ「未来思考型ＰＢＬ」の学習成果発表の様子を踏まえ、会議を実施した。

マイスター・ハイスクール事業推進委員会（資料７）は事業推進機関とし、ビジョンに基づき、教育課程刷新の方向性等について検討した。令和５年度は、令和５年６月２１日（水）に第１回、同年１１月１０日（金）に第２回事業推進委員会を開催した（資料８）。

【資料５】マイスター・ハイスクール運営委員会

会議オーナー	教育委員会
出席者	マイスター・ハイスクール運営委員
会議体の役割	・すべての意思決定・統括 ・地方公共団体が掲げる地域産業の未来像を実現するため、５年後１０年後を見据えた、高等学校で育成すべき人材像の検討 ・実施計画である「マイスター・ハイスクールビジョン」の作成 ・数値目標・指標の設定 ・事業推進機関を評価する ・マイスター・ハイスクールＣＥＯ、産業実務家教員の選任 等
回数	２回／令和５年度（２回／令和４年度）（３回／令和３年度）

【資料６】令和５年度マイスター・ハイスクール運営委員会 開催実績

実施月日	実施回	議題
令和５年５月２６日	第１回	協議 体制づくり （１）「庄原ひとづくりコンソーシアム」について （２）学習プログラムについて
令和６年２月５日	第２回	協議 「マイスター・ハイスクール事業」指定終了後の取組について

【資料７】マイスター・ハイスクール事業推進委員会

会議のオーナー	教育委員会
出席者	マイスター・ハイスクール事業推進委員
会議体の役割	・「マイスター・ハイスクールビジョン」に基づき、育成すべき人材像の育成に必要な学科や年限の改変も含めた教育課程の刷新の方向性を検討・決定 ・高等教育機関、金融機関、産業界との連携 等
回数	２回／令和５年度（３回／令和４年度）（３回／令和３年度）

【資料８】令和５年度マイスター・ハイスクール事業推進委員会 開催実績

実施月日	実施回	議題
令和５年６月２１日	第１回	協議 事業指定期間終了後の体制について （１）学習プログラムについて （２）「庄原ひとづくりコンソーシアム」について
令和５年１１月１０日	第２回	協議 事業指定終了後の見通しについて （１）コンソーシアムの在り方について （２）産業実務家教員について

イ 管理機関それぞれの役割分担について

(ア) 庄原市

マイスター・ハイスクール運営委員会及びマイスター・ハイスクール事業推進委員会の委員として、事業の管理・推進を担った。また、マイスター・ハイスクールCEOをオーナーとして本県独自に設置した「ざっくばらんな会」の構成員として、管理機関三者と指定校との連携を図るとともに、事業終了後の自走を見据えた取組として、管理機関、指定校とともに事業の自走に係る先進地の視察を実施した。

「産学官一体型学習プログラム」である「未来思考型PBL」において、生徒が研究を進めるプロジェクト課題の連携先として生徒への指導・助言を行うとともに、事業で育成を目指す「地域の未来社会実装型農業をデザインするアグリビジネスプレイヤー」の創出を目指し、共同研究を行った。

令和5年4月11日（火）に実施した「未来思考型PBL」における「学習プログラムⅠ キックオフミーティング」では、庄原市企画振興部農業振興課より庄原市の農政について第1学年生徒に対して講演を行った。

(イ) 庄原商工会議所

マイスター・ハイスクール運営委員会の委員として、事業の管理を担った。また、他の管理機関同様に「ざっくばらんな会」の構成員として管理機関三者と指定校との連携を図るとともに、事業終了後の自走を見据えた取組として、管理機関、指定校とともに事業の自走に係る先進地の視察を実施した。

「未来思考型PBL」における「学習プログラムⅣ アグリビジネスアイデアソン」では、「持続可能な社会・地域のために私達は庄原にどのように関わるべきか」、「10年後の庄原地域をどう創るか」という問いに対して生徒が立案したプロジェクトの計画に対する指導・助言を継続的に行うとともに、学習内容の深化を図った。

令和5年4月11日（火）に実施した「未来思考型PBL」における「学習プログラムⅠ キックオフミーティング」では、「庄原（地方）でのビジネスアイデアについて」と題して第1学年生徒に対して講演を行った。

(ウ) 広島県教育委員会

代表管理機関として、事業の取組が確実に推進されるよう統括し、指定校及び他の管理機関との連携を図った。マイスター・ハイスクール運営委員会及びマイスター・ハイスクール事業推進委員会を主催し、日程調整及び協議内容等について委員との連携を図るとともに、委員として事業の管理・推進を担った。

他の管理機関同様に「ざっくばらんな会」の構成員として、管理機関三者と指定校との連携を図るとともに、事業終了後の自走を見据えた取組として管理機関、指定校とともに事業の自走に係る先進地の視察を実施した。

「未来思考型PBL」における「学習プログラムⅡ グローバルデザイン Thinking」及び「学習プログラムⅣ アグリビジネスアイデアソン」の視察を行い、「産学官一体型学習プログラム」の更なる充実に向けた指導・助言を行った。

令和5年10月28日（土）・29日（日）に開催された第33回全国産業教育フェア「さんフェア福井2023」における「文部科学省事業発表会」に向けて、指定校と連携しながら事業に係る生徒の発表に対する指導・助言を行った。

ウ 管理機関による主体的な取組・支援について（主体的な取組の例）

（ア）「コアメンバー会議」の設置

県教育委員会を代表として本県独自の「コアメンバー会議」を設置し、県教育委員会と指定校との連携を図り、進捗状況や取組の成果と課題、新たな知見や気付きを共有し、事業推進に向けての意見交換を行うとともに、事業終了後の自走について検討を重ねた。また、マイスター・ハイスクール運営委員会及び事業推進委員会を開催する際は、コアメンバー会議において協議内容を事前に検討した（資料9）。

【資料9】コアメンバー会議

会議オーナー	教育委員会
出席者	校長、教頭、マイスター・ハイスクールCEO、事業研究開発主任、事業総務主任、教育委員会（代表管理機関）
会議体の役割	教育委員会と指定校との連携 ・事業の進捗確認 ・取組の成果と課題、他県の情報や地域の情報、困り事を共有
実績	5回／令和5年度（9回／令和4年度）（13回／令和3年度）

（イ）「ざっくばらんな会」及び「伴走者会」への出席

マイスター・ハイスクールCEOをオーナーとして本県独自に設置した「ざっくばらんな会」（資料10）の構成員として会議に出席し、管理機関三者と指定校との連携を図った。

また、伴走者事務局をオーナーとして本県独自に設置した「伴走者会」（資料11）の構成員として県教育委員会より担当指導主事が会議に出席し、他県の事例等に係る情報提供を受けながら、事業指定終了後の自走に向けた検討を重ねた。

先進地視察として、令和5年10月26日（木）、ざっくばらんな会及び伴走者会の構成員により「一般社団法人神山つなぐ公社（徳島県名西郡神山町）」の取組に係る視察を実施した。地域での人材育成に先進的に取り組む専門家からの講話を受け、指定校が所在する庄原地域における人材育成システム構築のための知識を得ることにより、地域の将来構想と人材育成の連携が図られた組織の構築を目指すことを趣旨とした。

【資料10】ざっくばらんな会

会議オーナー	マイスター・ハイスクールCEO
出席者	マイスター・ハイスクールCEO、事業研究開発主任、庄原市（管理機関）、庄原商工会議所（管理機関）、教育委員会（代表管理機関）
会議体の役割	管理機関三者と指定校との連携 ・取組の成果と課題、困り事を共有 ・各管理機関からの情報提供
実績	3回／令和5年度（3回／令和4年度）

【資料11】伴走者会

会議オーナー	伴走者事務局
出席者	伴走者、マイスター・ハイスクールCEO、事業研究開発主任、教育委員会（代表管理機関）
会議体の役割	伴走者・アドバイザーによるプロジェクトマネジメントスキル向上に向けた助言 ・取組の成果と課題、困り事を共有 ・他県の事例等に係る情報提供
実績	6回／令和5年度（3回／令和4年度）

(ウ) 先進校視察に係る管理機関による仲介

県教育委員会は、指定校から「マイスター・ハイスクール事業」、「総合的な探究の時間」等に係る先進校視察の照会を受けたため、該当県の指導主事と連携し、指定校と該当校との仲介を担った。その後、指定校は他県の先進校を視察し、事業の推進に向けた組織マネジメントや「総合的な探究の時間」におけるSTEAM教育の実施に係る知見を深めた（資料12）。

【資料12】 管理機関による仲介

指定校からの照会	管理機関による仲介
マイスター・ハイスクール事業のマネジメントに係る先進事例	大分県教育庁を介して、大分県立久住高原農業高等学校への視察を仲介。
先進的な農業教育に係る事例	高知県教育庁を介して、高知県立高知農業高等学校への視察を仲介。
「総合的な探究の時間」に係る事例	高知県教育庁を介して、高知県立山田高等学校への視察を仲介。

(エ) 魅力発信

県教育委員会は次の媒体を通じて事業の取組を発信した（資料13）。

【資料13】 県教育委員会による魅力発信

公開月 担当部署	媒体	内容
令和5年11月 総務課秘書広報室	広島県教育委員会 HP	令和5年度教育委員の活動として「10月31日（火）に、教育委員が庄原実業高等学校を訪問しました。」を公開し、マイスター・ハイスクール事業の取組の様子について紹介した。
令和5年11月 総務課秘書広報室	広島県教育委員会 広報紙「くりっぶ」	県教育委員会が発行する広報紙「くりっぶ」82号（令和5年11月1日発行）に、「さんフェア福井2023」におけるマイスター・ハイスクール事業発表会について掲載した。
令和5年12月 高校教育指導課	広島県教育委員会 NEWS RELEASE	「庄原実業高等学校の生徒が生産した和牛、LECTで販売決定！」というプレスをリリースした。

エ 事業終了後の自走を見据えた取組について

持続可能な支援体制に係る懸念事項として、事業終了後における「マイスター・ハイスクールCEO」と「産業実務家教員」の役割を担う人材の確保が挙げられる。本県では令和4年10月31日に、広島県地方産業教育審議会「本県におけるこれからの産業教育の在り方」について（答申）が示された。この答申の中で「急速に変化する社会において、目指す生徒の姿を実現するためには、大学や産業界の専門家を校内等に配置して連携を円滑にしたり、高度な知識や技術をもつ外部人材を講師として招聘したりするための予算の充実が必要である。」と示されていることから、県教育委員会では本事業の成果と課題を参考としながら「学校と産業界をつなぐコーディネーター」や「産業実務家教員」の設置に係る検討を令和5年度より始め、令和6年度より「産業教育コーディネーター」及び「産業実務家教員」を設置することとした。

10 事業の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施日程（令和5年4月1日～令和6年3月31日）											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学習プログラム	→											→
産業界との連携	→											→
大学等との連携	→											→
教職員研修	●	●					●	●				
講演会の実施								●				
事業評価				●							●	

（●：実施、→：教育課程に応じて実施）

(2) 実績の説明

ア カリキュラムの刷新

(ア) 産学官一体型の「学習プログラム」の開発と充実

令和4年度から継続して第1学年の科目「農業と環境」、第2学年の科目「農業実践研究」、第3学年の科目「課題研究」において「未来思考型PBL」の実践に係る学習プログラムを開発し、その定着を図る。生徒には3年間を貫く問いとして「持続可能な社会・地域のために私達は庄原にどのように関わるべきか。」、「10年後の庄原地域をどう創るか。」を投げかけ、この問いに対する最適解を求めていく。この学習プログラムの開発に当たり、企業や専門家の指導・助言を得て学習内容の深化を図る。

【資料14】令和5年度「未来思考型PBL」の資質・能力対応表

対象学年	実施内容	生徒に身に付けさせたい資質・能力						
		知識・技術 専門的な 能力	課題解決 能力	提案力	共創力	創造力	自己管理能力	人間関係形成 能力
第1学年	第1回授業 (キックオフミーティング)		○					○
	第2回授業 (あなたにとってのキャリア)						○	○
	第3回授業 (社会の変化で大切なことは何なのか?)				○		○	
	第4回授業 (農業を取り巻く環境はどう変化・ 進化するのか)	○			○			

第5回授業 (地域を知る)	○	○					
第6回授業 (グローバルデザイン Thinking)	○						○
第7回授業 (アグリビジネスに何が求められているか?)		○			○		
第8回授業 (自身の未来はどうあるべきか)		○			○		
第9回授業 (データでみる地域)		○		○			
第10回授業 (マナー講習会)		○	○				
第11回授業 (仮説検証)		○		○			
第12回授業 (フィールドリサーチ)		○		○			
第13回授業 (仮説検証のための方法の検討)		○		○			
第14回授業 (アドバイスとブラッシュアップ)		○	○				
第15回授業 (企画素案作成)		○	○				
第16回授業 (アグリビジネスアイデアソン)		○	○				
第17回授業 (仮説検証のためのシミュレーション)	○					○	
第18回授業 (成果発表・振り返り)			○			○	

第1回授業（キックオフミーティング）

ア 生徒に身に付けさせたい力

これから取り組む「未来思考型PBL」の全容を理解し、生徒一人一人が未来を創る当事者であるという自覚を持ち、今後の学びに興味を持つことができる。

イ 内容

第3学年による令和4年度取組の報告、マイスター・ハイスクール事業の紹介、産業実務家教員の紹介、講師講演。

第2回授業（あなたにとってのキャリア）

ア 生徒に身に付けさせたい力

人としての生き方について考えることで、自己の在り方に気付くことができる。

他者の考えを聴くことで、自分自身について考えを深め、自身の持つ可能性を意識することができる。

イ 内容

ワーク①「ライフウェーブチャートを作成」

- ・これまでの人生で印象に残ったことを洗い出す。嬉しかったことや悲しかったこと、感動したことなど、印象に残っている出来事を入れる。
- ・グループでシェアする。

ワーク②「マインドマップで自分の周りにどんな人がいるか考える」

- ・自分の周りにどのような人物がいるか、つながりを考えながらマインドマップを作成する。
- ・グループでシェアする。

※ 第3・4回授業は、本事業によらない学習プログラムを含むため掲載しない。

第5回授業（地域を知る）

ア 生徒に身に付けさせたい力

自分自身が未来を創る当事者であること、マイスター・ハイスクール事業の主役であることに気付く。

庄原地域の魅力や課題等の状況について、外部講師の方の話を聞き理解を深める。

イ 内容

各学科の学習分野に関係する地元企業・行政の方を特別講師として招き、地域、事業の魅力等について理解を深めた。

第6回授業（グローバルデザイン Thinking）

ア 生徒に身に付けさせたい力

プロジェクトの課題設定に向けて協働的にワークショップに取り組むとともに、Art の視点でチームの考えを表現することができる。

イ 内容

特別講師として星野 珠枝 氏（プロノイア・グループ／COO シニアコンサルタント）を招いた。生物生産学科、食品工学科、生活科学科、環境工学科を2学科ずつの同時展開で会議室を会場とし、全生徒に対して講義を実施した。

講義①：「カオスって何？」

ワーク①：「未来の世界を見てみよう」「自分を表現しよう」Who are you?

講義②：「時代の変化を眺めてみよう」「今の自分に必要な観点は？」

ワーク②：「みなさんのチームは、カードに書かれた状況にあります。窮地を脱し、チームが生き残るための方法を考えましょう。」

困難な状況が示されているカードがランダムに配付され、カードに書かれた1つの課題を解決する。27種類の道具、自分自身の強みや特技を道具として利用することができる。

※ 第7・8回授業は、本事業によらない学習プログラムを含むため掲載しない。

第9回授業（データで見る地域）

ア 生徒に身に付けさせたい力

プロジェクトの課題設定に向けて、協働的に必要な情報を特定・収集し、分析することができる。

研究課題を焦点化することができる（抽象的なイメージから、具体化へ）。

研究に必要となるデジタル機器について自ら環境づくりを行うことができる。

イ 内容

プロジェクトの課題設定に向けて、協働的に必要な情報を特定し、収集し、分析を行う。

第1回の授業における「あなたは10年後、どんな〈農業〉を創りたいですか。」への問いに対する回答を基に各学科グループ分けを行い、それぞれのグループごとに広島県の農業や庄原市の現状に関するデータ等、ICT機器を用いてリサーチを行った。

第10回授業（マナー講習会）

ア 生徒に身に付けさせたい力

地域の自然、農村生活を知り、課題発見解決型の学習活動を通して、地域農業や農山村の特色・文化等に気づき、地域に興味・関心を持たせる「フィールドリサーチ」を実施する。この実習において、地域の方々取材するに当たり、礼儀作法及び取材の方法等についても身に付けることができる。

イ 内容

特別講師として鳴石 しのぶ 氏（株式会社ファーストボイス 代表取締役）を招いた。挨拶、お辞儀、立ち居振る舞い、入退室のマナーなどの基本的なことから、第一印象をアップさせる方法、身だしなみ、コミュニケーション能力、伝えることの大切さなど、「フィールドリサーチ」を行う上で必要となるソーシャルスキルに関する演習を実施した。

第11回授業（仮説検証）

ア 生徒に身に付けさせたい力

プロジェクトの課題設定（10年後の庄原を支えるアグリビジネス）に向けて、収集、分析した情報を基に適切に仮説を立てることができる。

イ 内容

設定した課題に関する追加リサーチ（地域、研究機関などとも連携）を行い、リアルな実情の把握を行った。10年後の庄原地域を支える可能性のある分野を特定した。

第12回授業（フィールドリサーチ）

ア 生徒に身に付けさせたい力

仮説の検証に必要なリサーチ先や実習先を提案することができる。

イ 内容

シミュレーションの方法に関する検討、フィールドリサーチの実施。

第13・14回授業（仮説検証のための方法に関するアドバイスとブラッシュアップ）

ア 生徒に身に付けさせたい力

仮説に基づきシミュレーションを実践するための計画を立てることができる。

イ 内容

シミュレーション方法を確定し、シミュレーションに必要な外部との連携を行った。

第 15 回授業（企画素案作成）

ア 生徒に身に付けさせたい力

研究企画や現在のシミュレーションの状況について、外部講師に伝え、必要なアドバイスを受けるための情報を整理することができる。

チーム内で協働してスライドや企画書を適切に作成することができる。

イ 内容

探究課題をもとに、これからの「未来思考型 PBL」の流れの確認と理解を目的として、企画素案の作成を行った。

第 16 回授業（アグリビジネスアイデアソン）

ア 生徒に身に付けさせたい力

作成したスライドやワークシートを自ら整理して他者に伝えることができる。

イ 内容

生徒が作成した「10 年後の庄原地域を支えるアグリビジネス」の企画書をパワーポイントで投影し、その企画内容に対して外部講師及び同じ学科の第 3 学年生徒から、アドバイスとフィードバックをいただいた。

第 17 回授業（仮説検証のためのシミュレーション）

ア 生徒に身に付けさせたい力

仮説に基づきシミュレーション方法を再考し、プロジェクトの実践計画を立てることができる。

仮説が適切に立てられており、それを基にシミュレーションの実践計画を立て、リサーチ先や実習先とその連携手段を提案することができる。

イ 内容

シミュレーションの方法を確定し、シミュレーションに必要な外部との連携を行った。

第 18 回授業（成果発表・振り返り）

ア 生徒に身に付けさせたい力

学科全体として、取組の成果を共有し、他者の取組を知ることで、「未来思考型 PBL」の価値付けを行うことができる。

個人で学びを振り返り、自己評価を行うとともに、2 年次の進路目標を描くことができる。

イ 内容

これまでの探究活動をまとめ、「10 年後の庄原を支えるアグリビジネス」についてグループごとに企画発表を行った。1 年間の探究活動を振り返り、自己評価を行った。

(イ) 産学官一体型キャリアモデルの開発

a 目的

小学校・中学校・高等学校・高等教育機関で取り組んでいるキャリア教育が、職業教育を中核としつつ地域の将来構想と連動していくよう、産学官一体型キャリアモデルを構築していく。

b 取組内容

(a) 令和5年度 保幼高連携交流学习【サツマイモ栽培】

連 携 先：庄原市立庄原保育所

対象生徒：生物生産学科 第1学年生徒 23名

科 目：「生物生産学基礎」（学校設定科目）

活動内容：サツマイモの栽培（定植・収穫等）を行う。

日 時：（第1回）令和5年6月6日（火）1限～4限目

（第2回）令和5年10月12日（木）1限～4限目

■育成された基礎的・汎用的能力（庄原保育所園児）

人間関係形成・社会形成能力	高校生の説明を聞き、定植を行うなど、高校生（他者）との関わりの中で自分の役割を果たすことができた。
自己理解・自己管理能力	サツマイモの定植及び収穫に関わることで、自らがサツマイモを成長させることができるという「できること」に触れることができた。
課題対応能力	—
キャリアプランニング能力	—

■育成された基礎的・汎用的能力（指定校生徒）

人間関係形成・社会形成能力	園児の立場を理解した上で、画用紙を用いて説明したり、園児と一緒に作業を行ったりするなど、園児（他者）と協力し自分の役割を果たすことができた。
自己理解・自己管理能力	異年齢の園児と関わることで、多様な他者との関わりについて理解を深めるとともに、高校生自身のサツマイモに関する基礎的知識の理解を深めることができた。
課題対応能力	異年齢の園児との関わりの中で、自らがどのように説明することが園児に伝わりやすいのかなどを考え、説明に向け計画的に準備することができた。
キャリアプランニング能力	園児が嬉しそうに収穫する姿に、自らの役割への意義を感じることもできた。

(b) 令和5年度 小高連携交流学习【稲作】

連 携 先：庄原市立庄原小学校 第5学年児童 58名

対象生徒：生物生産学科 第2学年生徒 17名

科 目：「農業実践研究」（学校設定科目）

活動内容：昔ながらの方法で稲作を行う。

日 時：（第1回）令和5年5月18日（木）2～4限目 田植え（手植え）

（第2回）令和5年9月22日（金）2～4限目 稲刈り（手刈り）

（第3回）令和5年12月8日（金）2～4限目 餅つき

■ 育成された基礎的・汎用的能力（庄原小学校児童）

人間関係形成・社会形成能力	高校生と協働し取り組む経験から、自分の役割を探したり、農業と自分の関わりを感じたりすることができた。
自己理解・自己管理能力	安全に作業を進めることを通して、自らをコントロールしながら行動することの重要性を理解することができた。
課題対応能力	栽培の違いなどの情報を聞きながら安心・安全な米づくりを考えることで、物事の本質に迫る思考過程を感じるすることができた。
キャリアプランニング能力	—

■ 育成された基礎的・汎用的能力（指定校生徒）

人間関係形成・社会形成能力	減化学肥料、低農薬栽培、減農薬栽培といった小学生（他者）には難しい内容をいかに理解してもらうかを考えることを通して、他者理解や協働の重要性を感じるすることができた。
自己理解・自己管理能力	「先生役」を実演する中で、自らを律しながら小学生（他者）と接することの意義を感じるすることができた。
課題対応能力	異年齢の小学生に栽培について提案する機会に向け、計画的に準備することを通して、物事の進め方について学ぶことができた。
キャリアプランニング能力	田植え、稲刈りに留まらず、餅つきを行うことで小学生の喜びが増し、これらの取組を通じて、自らの役割への意義を感じるすることができた。

(c) 「庄原市立高小学校第1・2学年の授業交流」

主 催：庄原市立高小学校

連 携 先：庄原市立高小学校 第1学年児童4名、第2学年児童8名

対象生徒：生物生産学科 第2学年生徒 動物生産類型5名

科 目：「畜産」

活動内容：

小学校第1学年は生活科「いきものとなかよし」の学習において、牛も人と同じように生命をもっていることを実感し、生き物に親しみをもち大切にしようとする態度を育てることとしており、また、小学校第2学年は生活科「もっととなかよしまちたんけん」の学習において、牛の世話をしている人が、自分たちの生活と関わっていることを実感したり、牛を飼うことの工夫や喜び、苦労などを知ったりして、生き物のいのちや地域を大切にしようとする態度を育てることとして、いることから、指定校生徒への聞き取り調査や関連農場での交流学习を行った。

日 時：令和5年12月5日（火）

■ 育成された基礎的・汎用的能力（高小学校児童）

人間関係形成・社会形成能力	牛を飼うことの大変さや、生き物のいのちの尊さを感じることを通して、社会の一員として自覚する機会となった。
自己理解・自己管理能力	事前学習と、実際の高校生との交流学习を体験することで、学ぶことの意義を感じるすることができた。
課題対応能力	高校生（他者）に聞き取りを行うことを通して、他者と関わる際にどのようなことを準備しておくことが必要であるかを学ぶことができた。
キャリアプランニング能力	—

■ 育成された基礎的・汎用的能力（指定校生徒）

人間関係形成・社会形成能力	児童（他者）に説明することを通して、多様な他者との関わりについて理解を深めることができた。
自己理解・自己管理能力	児童（他者）に説明する内容を考える過程において、自らの学びを振り返ることで、理解の深化を図ることができた。
課題対応能力	日々の学習で身に付けたことを、児童（他者）に説明することを通して、計画的に準備することの大切さを学んだ。
キャリアプランニング能力	小学生の疑問を解決する過程において、自らの役割への意義を感じることもできた。

(d) 「庄原市立庄原中学校 2 年生の職場体験」

主 催：庄原市立庄原中学校

連 携 先：庄原市立庄原中学校 第 2 学年生徒 6 名

活動内容：教職員の授業準備の手伝いや授業中における補助等を行い、教職について学ぶ機会とする。

日 時：令和 5 年 6 月 12 日（月）～令和 5 年 6 月 16 日（金）

■ 育成された基礎的・汎用的能力（庄原中学校生徒）

人間関係形成・社会形成能力	「教職」への理解が浅い状況の中で、指定校教員の説明や指示を理解する過程で、自分の役割を見出し行動することができた。
自己理解・自己管理能力	6 名が 2 つのグループに分かれ、それぞれのグループにおいて、自分の感情を律しながら前向きに取り組むことができた。
課題対応能力	1 週間の中で毎日自分の感じたことを振り返ることで、次の日の意欲を喚起しようとする姿が見られた。
キャリアプランニング能力	生徒としての学校ではなく、教員としての学校に触れることで、働くという視点で社会を見ようとする事ができた。

■ 育成された基礎的・汎用的能力（指定校生徒）

人間関係形成・社会形成能力	不安の中取り組んでいる中学生に、どのような声をかけることが支援になるのかを考える機会となった。
自己理解・自己管理能力	中学生に触れることで、高校生としての自覚が強く芽生えるとともに、中学生に対する自分の役割を考える機会となった。
課題対応能力	中学生（他者）に伝えることの困難さに気付くことで、自らがどうあるべきかを考えることができた。
キャリアプランニング能力	中学生の職場体験を共にすることで、指定校生徒自身の進路についても、あらためて考えることができた。

(e) 「広島県立庄原特別支援学校中学部との異校種間連携」

主 催：庄原特別支援学校

連 携 先：庄原特別支援学校中学部 生徒 3 名 教員 3 名

対象生徒：生物生産学科 第 2 学年生徒 動物生産類型 2 名

科 目：「農業実践研究」（学校設定科目）

活動内容：肉用牛の飼育、比婆牛の生態について聞き取り調査と見学

日 時：令和 5 年 7 月 7 日（金） 5、6 限

■ 育成された基礎的・汎用的能力（庄原特別支援学校生徒）

人間関係形成・社会形成能力	事前学習として、自己紹介や質問を考えることを通して、他者と関わる際に自分が何をすべきかを考えることができた。
自己理解・自己管理能力	牛舎見学に加え、実際に牛に触れたり、牛のブラッシングを行ったりすることを通して、どのような行動をとることが牛にとって心地よいかなどを感じることで、自分の行動を振り返ることができた。
課題対応能力	ニュースで知った「比婆牛」に興味を持つところから始まり、牛の生態を知るにはどうすればいいのかを考えることで、疑問に思ったことへの解決方法を学ぶことができた。
キャリアプランニング能力	—

■ 育成された基礎的・汎用的能力（指定校生徒）

人間関係形成・社会形成能力	牛舎見学や、牛のブラッシングを中学部の生徒（他者）に説明することを通して、多様な他者との関わりについて理解を深めることができた。
自己理解・自己管理能力	中学部の生徒に、どのように関わるのが相手の主体性を引き出すことにつながるのか考えることを通して、自身の振る舞いをコントロールすることの重要性を感じることもできた。
課題対応能力	中学部の生徒にさらに牛に対する興味を持ってもらうためには、どのように接したり説明したりすることが効果的なのかを考えることで、適切な物事の進め方を学ぶことができた。
キャリアプランニング能力	他者へ説明することの難しさを感じる中で、牛に関する理解を深めることができ、他者と接する中で学びを深めていくことの良さを感じることもできた。

（ウ）「総合的な探究の時間」（第2学年）の取組

a 「総合的な探究の時間」担当者会議

指定校における「総合的な探究の時間」は、農業科を中心とした専門教科と普通科の学習を横断的に学ぶものであると位置付け、様々な教科の教員で構成した。このことにより、教科の枠を超えた多角的な視点で探究活動を指導していく。

第1回担当者会議（令和5年4月7日（金））

- ・「総合的な探究の時間」設置の経緯と目的
- ・年間指導計画の作成
- ・4月実施予定の授業検討（学習指導案の作成）

第2回担当者会議（令和5年4月28日（金））

- ・評価規準（ループリック）の作成
- ・5～6月実施予定の授業検討（学習指導案の作成）

第3回担当者会議（令和5年6月21日（水））

- ・年間指導計画の見直し
- ・6～7月実施予定の授業検討（学習指導案の作成）

第4回担当学会議（令和5年8月23日（水））

- ・年間指導計画の見直し
- ・「Time Tact」による教材の検討
- ・9月実施予定の授業検討（学習指導案の作成）

第5回担当学会議（令和5年9月20日（水））

- ・10月実施予定の授業検討（学習指導案の作成）

第6回担当学会議（令和5年11月29日（水））

- ・「Time Tact」による教材の検討
- ・令和6年度の計画について
- ・評価方法の見直し

b 探究コーナーの設置

図書室に探究コーナーを設置した。探究コーナーには高性能PC及び電子黒板を設置し、授業で活用している。さらに今年度は司書教諭を中心に、探究活動に必要な書籍を導入し、授業を中心に活用している。

イ 体制づくり

（ア）内部環境

a 校内体制の充実

（a）事業推進体制の運営

令和4年度より継続して、業務の自走性と継続性の向上を目的に、校務運営会議（週に1回実施される定例会議）でマイスター・ハイスクール事業進捗状況の報告と協議を実施し業務推進を図った。

（b）事業推進体制の強化と充実

校務運営会議内にマイスター・ハイスクール事業推進会議を設け、毎週事業の進捗状況の共有化を図った。この進捗状況報告を作成するために、クラウド上事業進捗様式ワードファイルの共有化を図り、様式を共同作成することにより、事業の見通し、予定や計画、困りごとの共有化を行った。

b 教職員の資質向上

（a）授業力向上のためのコーチング技術に係る教職員研修

今後の授業の展開や生徒への指導を考えるに当たり、外部講師を招聘し、教職員研修を行った。全教職員が参加し、それぞれが感じている指導の悩みやより効果的なコーチングの技法について共有しながら学びを深めることができた。

テーマ：「「未来思考型PBL」及び「総合的な探究の時間」の指導に生かすコーチング技術の学習」

日 時：令和5年4月20日（木）13：30～15：00

場 所：庄原実業高等学校 会議室

講 師：NPO法人日本スクールコーチ協会認定スクールコーチ 三好 智玄 様

内 容：

生徒の学びを深めるために、KWL表を用いて授業者に必要な資質・能力について考えた。授業において、教員はファシリテーターとなるため「ファシリテーターにとって重要なことは何か？」をテーマに授業の在り方についてグループに分かれ、意見を出し合った。リーダーの役割と求められる能力やグループ内のフォロワーの存在などについても考察をすることができた。

生徒の現状を把握し、できることから始め、学びの方向性を見出していく手法や将来の姿を見据えて今の姿を見ることなど、今後の指導において重要な技法を再認識することができた研修であった。

(b)「未来思考型PBLの指導力向上～地域を学ぶ～」に係る教職員研修

県北地域の実態を学ぶため、2日間にわたり実際の現場に足を運び、教職員研修を行った。特色ある道の駅やキャンプ場、農園における工夫点等を教えていただき、集客のための取組や企画・立案の際の視点等を学ぶことができた。

テーマ：「未来思考型PBLの指導力向上～地域を学ぶ～」に係る教職員研修

日時：令和5年5月23日（火）13：30～16：30

場所：①道の駅たかの ②大鬼谷オートキャンプ場 ③まえた農園

講師：①・②株式会社緑の村 代表取締役 根波 裕治 様

③合同会社まえた農園 代表社員 前田 賢治 様

内容：

①道の駅たかの

「とことん庄原産」をコンセプトに平成25年4月にオープンした。直売所わいわい市場の出荷者協議会の会員数は451名（現在数）であり、入会条件を庄原市内に籍のある個人又は法人限定としている。また、販売品も庄原市内で獲れた農産物及びそれらを加工した物（目標数100品）としている。ただし、収穫時期による品不足を防ぐため、大崎上島や高知県室戸市と連携している。西日本で唯一の雪室も魅力の一つである。

②大鬼谷オートキャンプ場

西日本では数少ない雪中キャンプの体験が可能なキャンプ場である。ツリーアドベンチャーが人気であり、宿泊研修などの学校行事でも利用されている。

③まえた農園

イオンと連携し、アンジェレという品種のミニトマトを中心に出荷している。規格外のトマトは、トマトジャムや塩などの加工品として販売している。農家民宿を活用した留学生の受け入れによる国際交流や、職場体験などの取組を積極的に行っている。

日時：令和5年5月24日（水）13：30～16：30

場所：①東城きんさい市（道の駅内）・道の駅遊YOUさろん東城

②藤本農園

③渡邊農園

講師：①東城きんさい市運営協議会 会長 山本 一守 様

②株式会社藤本農園 代表取締役 藤本 聡 様

③渡邊農園 代表 渡邊 諒 様

内容：

①東城きんさい市

庄原市東城町にある東城町の生産者による東城町の産品にこだわった産直市である。平成7年にテント1張りで毎週末に始めた東城きんさい市も、規模を拡大し、年中無休で開市し、他県・他市町村への出荷も開始した。生産者と消費者の顔の見える交流を大事にして、生産者の顔写真を店内に掲載しているのが特徴である。また、生産者自身が輪番での販売を行うことで、消費者との交流及び消費動向を感じる工夫も取り入れている。

②藤本農園

庄原市東城町の棚田で、アイガモや、和牛の堆肥を使い、農薬を使わない循環型の農業を実践している。食べた人が元気になり、たくさんの笑顔が生まれたりうれしい、そんな思いを込めて「一粒万笑」の言葉を掲げている。土作りから米として出荷するまで、一貫して自社で行うことで、こだわりの米を作っている。また、消費者ターゲットを明確化し、SNSを用いて積極的に情報発信をするなど、戦略的に運営している。

③渡邊農園

里芋生産に力を入れている。代表の渡邊様は、米よりも3倍儲かるところに目をつけたが、「農業の担い手が減少し、若者が離れていくこの東城に、お金を稼ぐ方法を提示すれば、若者が帰って来ることに繋がる」という思いがある。戦略的に農業を実践していくことで、自身が地域をリードしていくという志が伺えた。

2日間の研修を通して、教員からは、「地域にはまだまだ知らない資源がたくさんある。」「PBL学習や総合的な探究の時間の学習に生かしていきたい。」などの声が聞かれ、今後の指導に活用できる大変有意義な研修であった。

(c)「10年後の庄原実業高校を考える」教職員研修

テーマ：「10年後の庄原実業高校の設計図をつくろう」

日 時：令和5年10月3日（火）13：30～15：00

場 所：庄原実業高等学校会議室

講 師：広島県立庄原実業高等学校 教頭、校内マイスター・ハイスクール事務局

内 容：令和5年度からの3年間の学校経営計画において、「10年後の庄原実業高校の役割」を明らかにすることにより、地域の未来創造に貢献できる人材の育成に向けた教育活動の充実を図る協議を行った。高校3年間に、どのような教育活動を行うことが、社会の課題や変化に対応する人材の育成や自ら社会を創り出していく人材の育成につながるのかについて、アイデアを出し合った。

展開①：これから必要とされる人材像について

展開②：ワールドカフェ

ラウンド1：教科・学科のグループで「地域にいて欲しい18歳の大人の姿」を検討し、Jamboardの各フレーム中央に「姿」を入力する。

ラウンド2：「姿」に関連する資質・能力のキーワードを表示する。

ラウンド3：各グループホストを残し、他のメンバーは自由に他のグループに

移動し、アイデアを出し合う。

ラウンド4：ラウンド3と同様。

ラウンド5：元のグループに戻り、資質・能力の獲得のための取組案を出し合う。

(d) 令和5年度広島県立庄原実業高等学校学園祭におけるマイスター・ハイスクール事業記念講演会

テーマ：「中山間地域の農村文化伝承とその意義

～去来神サンバイと農業農村の永続～」

日時：令和5年11月10日（金）9：10～10：10

場所：庄原実業高等学校体育館

講師：熊本大学大学院人文社会科学部 教授 山下 裕作氏

内容：講師の熊本大学の山下裕作教授は現在、日本民俗学や農業経営学を専門として研究活動を行っている。元々は、農林水産省の研究職としてモンゴルについて研究していたが、広島県にある「中国農業試験場」に配属されたことを契機として、中国山地の農村地域にて実施調査を行い、農村生活や農村文化等について研究を行うようになった。

本研修では、学園祭においてマイスター・ハイスクール事業記念講演会として、生徒・保護者・教職員を対象に、これまでの体験談や研究の内容を中心に御講演いただいた。特に、実地調査において村の高齢者の方たちから聞き取ったお話を基に、農村文化や民俗学について解説していただき、昔の日本人の考え方が現代にも継承されていることを学ぶことができた。また、多岐にわたって様々な分野のお話をしていただいたことについても、印象深い講演であった（以下、生徒感想参照。）

講演を聞いた生徒の感想：

「普段食べているお米についての話や神様についての話などを詳しく知ることができたので興味深く聞くことができた。」、「農村文化継承の大切さや農業農村の永続が、いかに重要かが良く分かった。」、「中山間地域の文化について学べた。様々な文化があることに驚いた。他にもどんな文化があるのかちょっと調べてみたいと思った。」、「私は、今日の講演会を聞いて、日本人は、物というものに魂を込めやすいことを知った。私は、物を捨てたくても心のどこかで「いや、これはまだ使うかもしれない。」と思い、物を捨てられていない状況が続いている。でも、この状況は私だけではなく、ほとんどの日本人が抱えている問題と知りすごく親近感がわくなと感じた。」、「聞いたことない、知らない言葉がたくさん出てきて知識がより身に付いた。その土地の伝統や文化を引き継いでいくことの大切さがあらためて分かった。」、「日本人は物に魂が宿っているから物を捨てることができないと言っていて私も断捨離をできないとを悩んでいたからそれが当たり前だということを知って安心した。」

(イ) 外部環境

a 外部人材の活用

(a) マイスター・ハイスクールCEOの活用

地域経営コンサル 合同会社なるさ

代表社員兼地域活性化伝道師

古川 充 氏

今年度も昨年度に引き続き、古川氏にマイスター・ハイスクールCEOを務めていただいた。マイスター・ハイスクールビジョンの達成のため、多岐に渡るマネジメント業務を行った。業務は事業全般の進捗把握及び管理や外部関係諸団体や個人との連携を中心に活動した。庄原市長訪問、未来思考型PBLに係る授業のための講師連携、産学官連携推進のためのルールブック（高校生版）となる「庄原実業産学連携・地域働ガイドブック 2023」の作成や校内の行事に関わる情報共有のマネジメントなども行った。また、指定校と管理機関とが日常的に対話できる「ざっくばらんな会」を継続して運営し、事業終了後の事業の自走化に向けて、伴走者（株式会社ソフィア）の協力を得ながら取り組み、庄原地域の学校教育支援のための一般社団法人の設立を提案した。なお、CEOの勤務体制は週2日である。

(b) 産業実務家教員の活用

株式会社庄原市農林振興公社 代表取締役

株式会社 vegeta 代表取締役

谷口 浩一 氏

マイスター・ハイスクール事業がスタートして3年目となる今年度も、谷口氏に産業実務家教員として御指導いただいた。谷口氏は、株式会社 vegeta を創業し、「夢なきものに成功なし」という社訓のもと、地域の活性化を目指した様々な取組に挑戦し続けてきた。現在では全スタッフ約50名で120ha以上の農地を管理している。従来からベビーリーフの水耕栽培を行っており、近年ではキャベツの大規模栽培で、広島県随一を誇る農業法人となった。また、加工用トマトの露地栽培をはじめ、もち麦などの健康食材の栽培を展開している。幅広い経営体系のため、作業は全て機械化一貫体系とし、定植から収穫まで機械で行っている。さらに育苗管理から農地の見回り等、固定カメラの設置や気象データを専用の機械で記録する等、遠隔から監視できるシステムを取り入れ、あらゆる作業にかかる時間の短縮を目指した「スマート農業」を実践している。

前年度作成した実施計画を基に、生物生産学科の学校設定科目「生物生産学基礎」、「農業実践研究」と科目「課題研究」において計画を実行した。令和5年1月に発売された農業用ドローン最新機種の新機種のデモフライトの見学をはじめ、実際にドローンの操縦方法を学ぶことができた。また、産業実務家教員の保有している高野町や口和町にある広大な圃場でキャベツやトマトの大規模栽培や生産実習を体験的に学ぶことができた。

今年度も、指定校の圃場や産業実務家教員の所有する（株）vegetaの川北農場をフィールドに、最先端の実技指導や、スマート農業の体験、圃場でドローン等の先端

機器を取り入れたデモンストレーションなど、多様な授業を実践した。生徒3～5名が毎週入れ替わり、3～4回のサイクルでクラス全員が全ての実習を体験できるよう展開した。

実習後の生徒のレポートの内容：

「今日は、ドローンの操縦を指導していただいた。前後や右左等の間隔が難しかったが、今度やるときはもっとうまく操縦したい。」

「大量に収穫されたキャベツをトレイに17.0 kgになるように分けていく実習だった。大量にあるキャベツをどうしたら早く分けられるか考えた。そこで17.0kgのキャベツの重さが、どの程度あるか感覚を掴むようにした。すると、17.0kg前後がほぼ量れるようになったので効率よく進めることができた。工夫しながら進めることが大切だと思った。」

以上のように、この実習への意気込みや実習から学んだことが記述されている。

科目「課題研究」では、圃場での「野菜栽培実習」と同時に、産業実務家教員から実際にダイコンやキャベツ等の生産について大型機械を用いて、耕うん、畝立て、播種、中耕、土寄せ、電動散粒機による殺虫剤散布、収穫機による収穫まで体系的に学ぶことができた。収穫した野菜を学校給食に提供することで地産地消の拡大を進めるとともに、地域の方々の農作物がもっと学校給食に提供できるよう、プロジェクト

「スマート農業と学校給食のコラボレーション～地域の野菜を地産地消～」を実施した。今年度は、野菜を提供している小中学校へ実際にドローンや乗用汎用野菜播種機及び収穫機等を操縦しながらスマート農業で栽培している姿を動画撮影し、伝えようと取り組んだ。

実習後の生徒のレポート内容：

「ダイコンについては、大型機械を使って耕うんから畝立て、播種、中耕、収穫まで体験することができた。播種は、最初まっすぐ植えていくのが難しくてぐちゃぐちゃになったところもあったが、後半は慣れてきてまっすぐ植えられるようになり、機械の操縦に自信が付いた。」、「給食調理場の方から「ありがとう」をたくさんいただけて、やっぱり感謝されるとうれしいと思った。今回も新鮮な野菜を届けることができて良かった。」

以上のような記述が見られた。生徒自身の様々な発見や成長が感じられ、充実したプロジェクトを実施することができた。

(c) 外部講師の活用

各学科の「未来思考型PBL」の深化及び学習特性に応じた最先端の知識・技術を習得するために、各分野の専門家を外部講師として招聘した。講師の招聘においては年間指導計画に基づき、科目や「未来思考型PBL」のねらいと外部講師招聘のねらいとの整合性を図り、本時の目標を明確にした授業展開がなされるよう講師選定を行った。また、外部講師の活用に係る意思決定プロセスを学科内で共有できるよう、校内におけるマイスター・ハイスクール推進会議及び校務運営会議や校内共有フォルダ

内で外部講師活用に関する情報を一元化した。

令和5年12月現在、授業で招聘した講師は延べ94名、実施時間は216時間である。講師を活用した科目は学校設定科目「各学科基礎」（第1学年）、科目「農業と環境」（第1学年）、学校設定科目「農業実践研究」（第2学年）、科目「課題研究」（第3学年）である。

「未来思考型PBL」では生徒が取り組む課題に適した講師を主体的にインターネットなどを活用して検索する活動を行った。また、学科の学習に適した講師との連絡調整をCEOが担うことにより、学習の深化を図ることができた。

b 共同研究・共同施設利用

今年度、共同研究を実施している研究題目を以下の表に示す。令和4年度は12の機関と取り組んだが、今年度は新たに18の機関が加わり、30の機関と取り組んだ。研究課題についても令和4年度の14件より7件加わり、21件に取り組んだ。

【資料15】共同研究・共同施設利用に係る研究実績

第3学年		
学科	研究課題名	連携先
生物生産学科	リンゴの枝木チップを生かした、お米栽培の確立	藤原ファーム、藤本農園
	梨「皮ごと食べてみませんか」 ～輸出から見つけた新たな魅力PR～	J A広島果実連 販売部 株式会社 あいいう舎
	シロアリソルジャーがニワトリの消化器官に及ぼす影響	京都大学大学院
	平飼い卵で庄原に新しい鶏卵生産経営を提案	(株) やさいバス
	環境に対応できる乳用牛を創る	県畜産協会 経営指導部
	牛舎の暑熱対策	広島県立総合技術研究所畜産技術センター
	和牛調教技術	J A庄原畜産課
	比婆牛の育成牛飼料マニュアルの作成	J A庄原畜産課
環境工学科	放置された土地を利用して憩いの場をつくる	カジオカL A
	ホテルを増やし、人を集め、庄原のことを知ってもらう！	庄原市役所・小林建設
	農林業体験で人を繋ぐ	ウッドワン
	古民家材で再生家具をつくる！	小林建設
	自然を活かしたアスレチック	備北森林組合
	ウルシの栽培研究～国産ウルシの生産量増加を目標とし、様々な栽培方法を模索している。～	三島食品株式会社、島津彩色工房
	激辛トウガラシで庄原をアツくする！	吉岡香辛料研究所
学科 生活科	栄養満点！とろけるプリン	介護老人保健施設愛生苑
	子どもたちの食生活をサポートする	庄原保育所

	オリジナルレクリエーションで高齢者を元気に！	庄原市社会福祉協議会
	香りで癒しの空間を提供する	庄原市社会福祉協議会
第2学年		
学科	プロジェクト課題名	連携先
生物生産学科	「にじのきらめき」を庄原の新たな特産物に	藤本農園
	ナシ果皮の機能性評価及び輸出時の課題解決に関する研究	県立広島大学
	ナシ酢の開発	後藤商店
	不耕起栽培に挑戦	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 西日本農業研究センター
	肥育牛の放牧	北海道大学北方生物圏フィールド科学センター
食品工学科	電子顕微鏡の前処理のマニュアル化に向けて	県立広島大学生物資源科学部地域資源開発学科
環境工学科	”GAKUSAI” マルシェ in Shobara station ～若者たくさんの都市に向けて～	庄原駅、庄原市役所
	西城川で新たな観光名所を！	西城川漁業協同組合
	耕作放棄地を利用してスパイス作り～庄原を健康の町に～	吉岡香辛料研究所、マルハバ庄原店
	地域資源を使って庄原の特産物をつくる！！	松栄堂、日本コルマー株式会社
	案山子が見守る小麦作り	J A、夢ファーム永末
	竹炭で環境改善大作戦！	竹炭工房、備北森林組合
生活科	ハンドケアで健康を手に入れよう！	庄原市社会福祉協議会

(ウ) 魅力発信

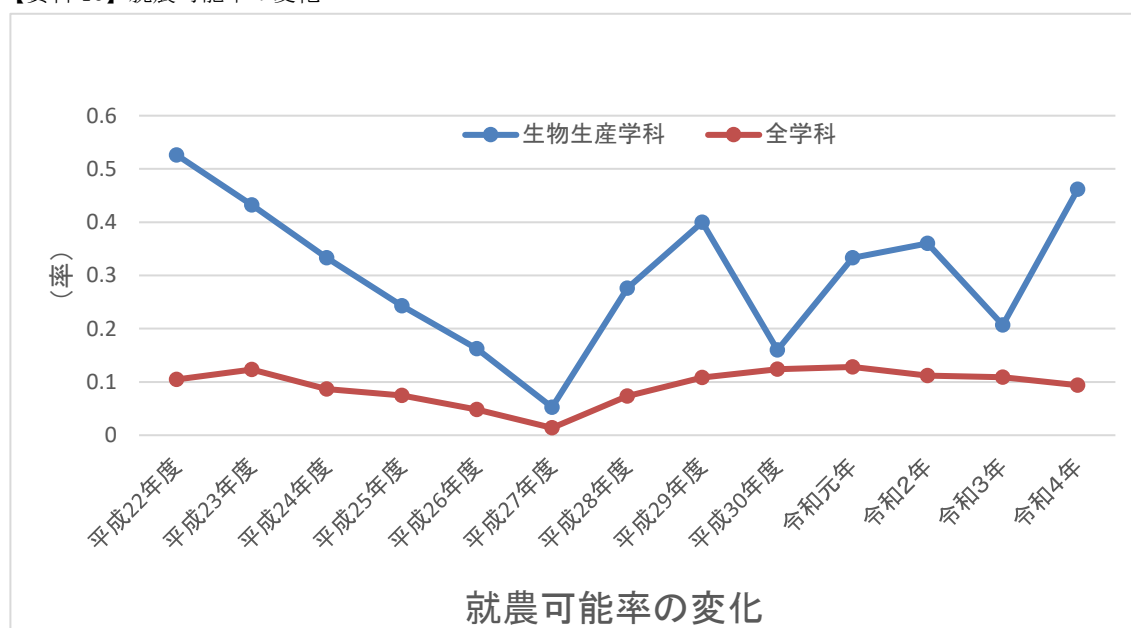
学校（教職員・生徒）が主体となつて行うプロモーション活動に係って、㈱ソフィアが伴走者となり、学校紹介動画の作成を行った。事業を開始した当初は、新入生へのオリエンテーションや入学生募集、来校者や地域住民（庄原市・三次市など）に対する広報活動等での活用が想定されていた。しかし、動画を指定校ホームページに掲載することになり、それに伴って変更・修正の必要が生じたため、指定校職員間での協議を経て、㈱ソフィア担当者に修正を依頼し、本事業を継続して行った。

1 1 目標の進捗状況、成果、評価

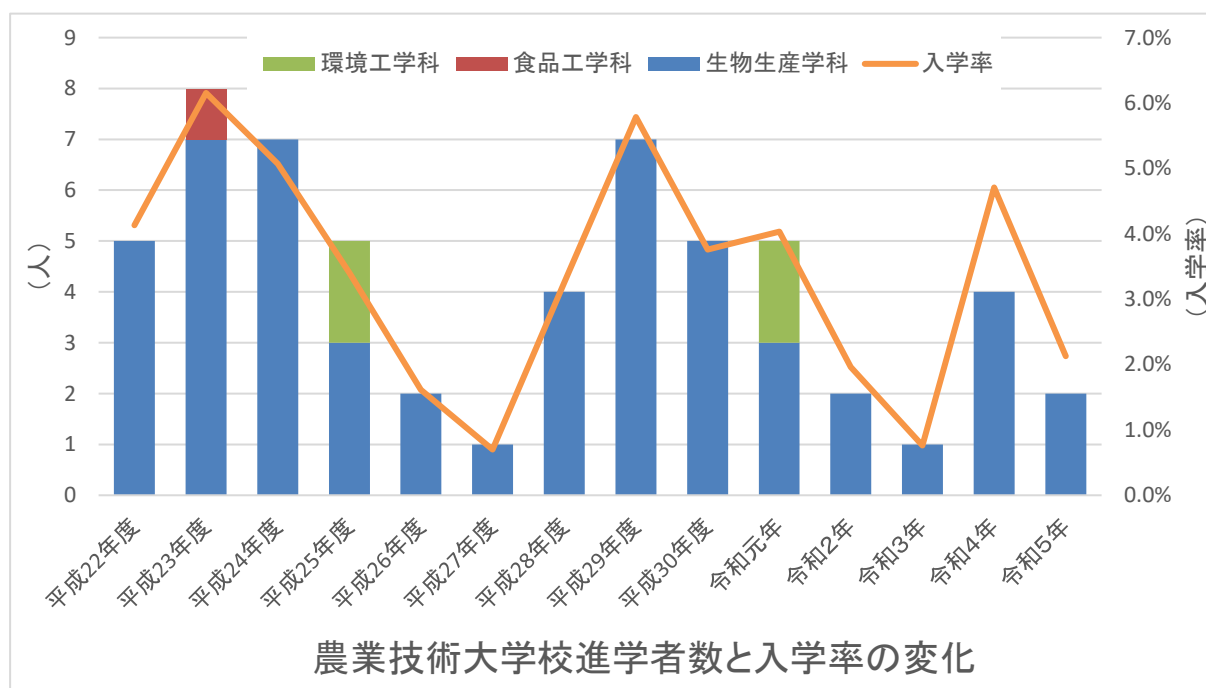
(1) 基本目標

基本目標である「就農可能率」、「農業技術大学校への進学者数」、「農業関連学部への進学者数」の平成22年よりの推移を各グラフで示す。令和5年度の就農可能率は14%であり目標より－1%であったが、生物生産学科においては、32%と目標より＋18%であった（資料16）。農業技術大学校への進学者数（人）では目標が7名であるが、令和5年度では2名で－5名であった（資料17）。農業関連学部への進学者数では、目標が3名に対して令和5年度では5名であり＋2名であった。生徒数が減少していることを踏まえると、これら3つの目標に対する平成22年度以降の実績値は上昇傾向にある（資料18）。

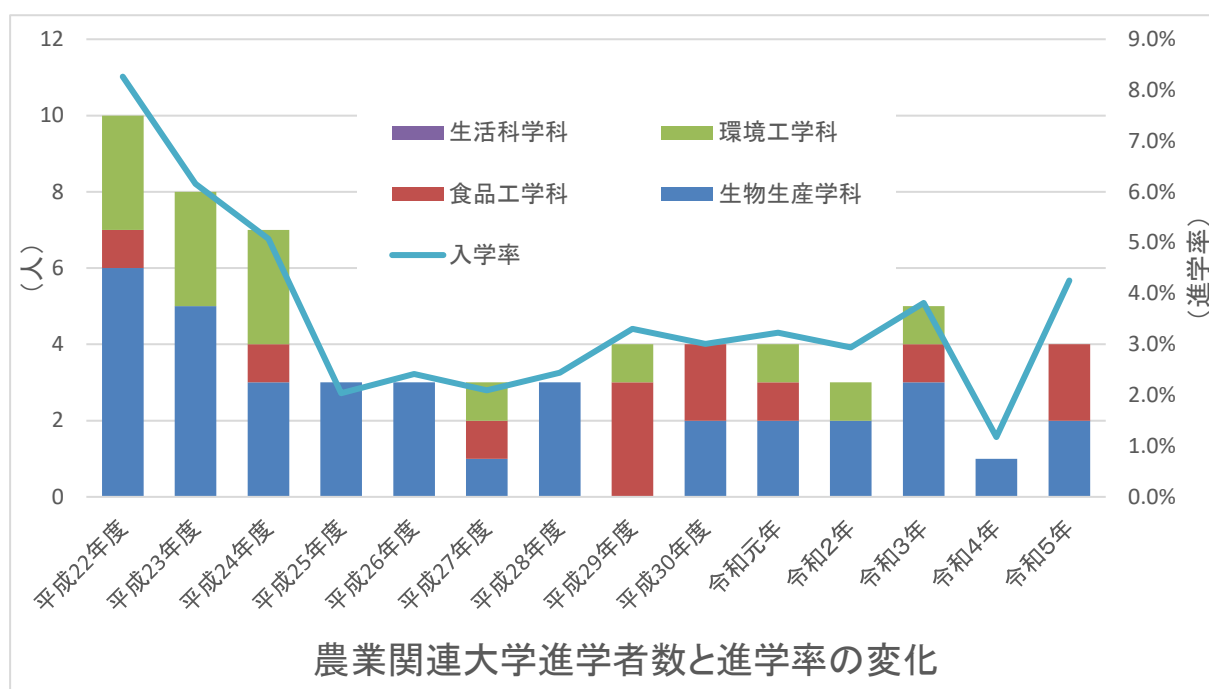
【資料16】就農可能率の変化



【資料17】農業技術大学校進学者数と入学率の変化



【資料 18】 農業関連大学進学者数と進学率の変化



(2) 事業評価

ア アウトカム評価

(ア) 定性的評価（生徒アンケート【選択式】による変容）

対象は全校生徒とし、令和3年度は316名、令和5年度は264名のデータである。生徒アンケート【選択式】の変容について示す各質問項目について、「思う」「どちらかと言えば思う」「どちらかと言えば思わない」「思わない」の4択から、肯定的回答（「思う」と「どちらかと言えば思う」）を選択した生徒の割合は以下の表のとおりとなった。

【資料 19】 定性的評価（生徒アンケート【選択式】による変容）

質問項目	R3. 11 実施	R5. 11 実施	変容
県北地域が好きである。	78.0	78.4	+0.4
県北地域の良さや価値を理解している。	76.6	78.8	+2.2
県北地域の課題を理解している。	72.0	84.8	+12.8
将来、県北地域の農業を成長させるためのアイデアがある。	27.6	29.8	+2.2
将来、自分自身で県北地域の課題解決に貢献することができると思う。	35.7	40.6	+4.9
10年後の未来がどのようなになっていくかについて想像できる。	46.2	55.5	+9.3
自分の力で未来を創ることができると思う。	43.0	32.1	-10.9

事業に3年間取り組んだ令和3年度入学生（93名）の変容については以下のとおりとなった。

【資料20】令和3年度入学生（93名）の変容

質問項目	R3. 11	R4. 4	R5. 2	R5. 5	R5. 11
県北地域（三次市、庄原市）が好きである。	82.5	80.9	87.8	82.5	84.7
県北地域の良さや価値を理解している。	80.0	71.3	83.6	87.3	87.3
県北地域の課題を理解している。	71.3	77.7	95.9	88.9	91.5
将来、県北地域の農業を成長させるためのアイデアがある。	35.0	31.9	40.5	28.6	34.7
将来、自分自身で県北地域の課題解決に貢献することができると思う。	42.5	31.9	38.4	23.8	44.4
10年後の未来がどのようなようになっていくかについて想像できる。	48.8	42.6	60.8	58.7	66.7
自分の力で未来を創ることができると思う。	45.0	39.4	47.9	33.3	50.0

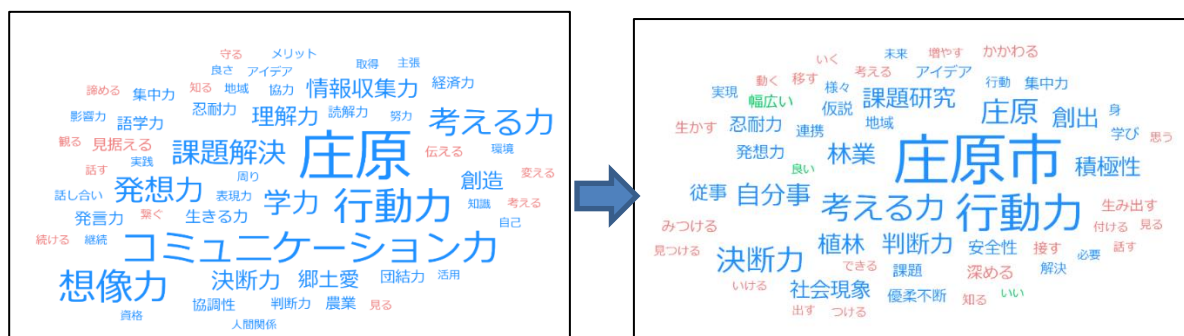
（イ）定性的評価（生徒アンケート【記述式】による変容）

生徒アンケート【記述式】の変容について示す。A I テキストマイニングを活用して、傾向を分析した。頻出度の高い名詞に大きな変化は認められないが、ポジティブな形容詞や動詞が多く読み取れるようになった（資料21～24）。

【質問】未来を創るために、今から自分が身に付けなければいけない力は何ですか。

【資料21】[令和4年4月実施時の回答]

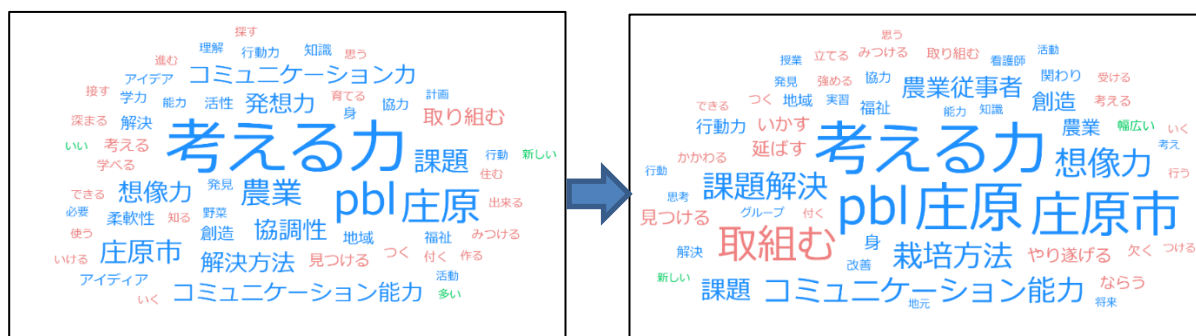
【資料22】[令和5年11月実施時の回答]



【質問】庄原実業高校に入学して、未来を創るために身に付いた力は何だと思いますか。

【資料23】[令和5年2月実施時の回答]

【資料24】[令和5年11月実施時の回答]



(ウ) 定量的評価（F F J 検定の認定状況）

令和5年度のF F J 検定上級認定者割合は生物生産学科 77%、食品工学科 75%、環境工学科 57%、生活科学科 46%であり、学校全体において 63%を超えることができた。目標値である 40%を上回り、各学科の特性に合わせた学習に対して、生徒が積極的に取り組んだことが分かる（資料 25）。

【資料 25】令和5年度F F J 検定 認定者数（人）

等級	生物生産学科	食品工学科	環境工学科	生活科学科	合計
上級	17	15	17	10	59

（参考） 「F F J 検定」は、農業学習や学校農業クラブ（以下、農業クラブ）活動で培ってきた自分の力が、「科学性、社会性、指導性」という 3 大目標に対して、どの程度まで到達したかを確認するためのものである。毎日の努力の積み重ねを一定の基準で、客観的に評価することがねらいである。

(エ) 定量的評価（アグリマイスター顕彰の認定状況）

今年度のアグリマイスター顕彰シルバーの認定者は 19 名であり、前年度より 10 名減少している。目標値であるアグリマイスター顕彰プラチナ取得者数 4 名以上は達成できなかった。第3学年での取得率は、約 20%であった（資料 26）。

【資料 26】令和5年度アグリマイスター顕彰 認定者数（人）

等級	生物生産学科	食品工学科	環境工学科	生活科学科	合計
プラチナ	—	—	—	—	—
ゴールド	—	—	2	—	2
シルバー	2	2	7	8	19

イ アウトプット評価

【資料 27】令和5年度 事業計画書に基づく事業評価（アウトプット評価）一覧

	項目	目標値	R 4 実績値	R 5 実績値
カリキュラム開発	産学官一体型の「学習プログラム」の開発に係る外部との協議	3 回以上	3 回	3 回
	産学官一体型キャリアモデル開発に係る外部との協議・実施	3 回以上	3 回	4 回
	教育課程の刷新に係る外部との協議	3 回以上	3 回	5 回
	マスタールーブリックを意識したシラバスの改訂	全科目	全科目	全科目
体制づくり	外部講師の活用時間数 産業実務家教育の活用時間数	100 時間以上	121 時間	174 時間
	教科等横断的な授業の学習指導案	8 案	4 案	6 案

外部機関との共同研究数	8 件	14 件	29 件
「産学官連携推進ルールブック 高校生版（仮）」の作成に係る協議	3 回以上	2 回	4 回
マイスター・ハイスクール推進会議の実施回数	2 回／月	31 回	33 回
マイスター・ハイスクール事業に係る教職員研修	3 回／年	3 回	5 回
マイスター・ハイスクール事業に係る講演会実施回数	2 回／年	1 回	1 回

令和 5 年 11 月末現在

ウ マスターループリックを意識したシラバスの改訂

昨年度、マスターループリックを以下のとおり作成した。今年度はこのマスターループリックを意識したシラバスの改訂、授業づくり、学校行事等を実施した。

【資料 28】学校全体で育成する資質・能力のマスターループリック

資質・能力	レベル 1	レベル 2	レベル 3	レベル 4
専門的な知識や技術	専門的な知識や技術を身に付けることの重要性を理解している。	専門的な知識や技術を身に付けるための土台となる基本的な知識や技術を身に付けている。	専門的な知識や技術を十分に身に付けており、それらをどのように活用することができるか理解している。	専門的な知識や技術を十分に身に付けており、その知識や技術から新たな技術へ発展させることができる。
課題を発見する力	身の回りの出来事などから、解決すべき課題を発見することができる。	身の回りの出来事や学習した内容から、自らが解決すべき課題を発見することができる。	地域や社会の現状を広い視点で分析し、自らが解決すべき課題を発見することができる。	地域や社会の現状を広い視点で分析し、解決すべき課題に対して、自らがどのように関わることができるかを考えることができる。
提案する力	身の回りの課題に対して、解決策を提案することができる。	地域、社会の課題に対して、専門性を生かした解決策を提案することができる。	地域、社会の課題に対して、専門性を生かし、多角的な視点で解決策を提案することができる。	地域、社会の課題に対して、専門性を生かし、多角的な視点で次世代社会に対応した解決策を提案することができる。
他者と協力する力	グループやペアワークにおいて、他者と協力することの重要性を理解している。	グループやペアワークにおいて、他者と協力する上での自分の役割を認識し、活動することができる。	グループやペアワークにおいて、よりよい課題解決のために自分の役割を認識し、他者と協力して活動することができる。	主体的に他者と協力し、未来社会を創るリーダーとして活躍することができる。
自分を分析する力	自己の生き方や在り方を考え、自己を認識することができる。	他者との関わりの中で、自己の生き方や在り方を考え、自己を認識・分析することができる。	他者との関わりの中で、自己の生き方や在り方を考え、自分の未来を創るために行動を起こすことができる。	地域社会において、自己の生き方や在り方を考え、自分の未来をデザインすることができる。

1 2 次年度以降の課題及び改善点

事業の取組を今後、学校に根付かせ、地域に還元するために、以下の3つの目的を持つ組織の構築について、学校が関係機関と引き続き連携する。

- 探究（学び）の深化に向けた課題発見解決型学習の充実
- 地域の人的資源を活用した学習の充実
- 庄原市内の関係機関との持続可能な連携体制の構築

事業終了後の自走化に向けた取組について

持続可能な支援体制に係る懸念事項として、事業終了後における「マイスター・ハイスクールCEO」と「産業実務家教員」の役割を担う人材の確保が挙げられる。このことに係り、本県では令和4年10月31日に、広島県地方産業教育審議会「本県におけるこれからの産業教育の在り方」について（答申）が示された。この答申の中で「急速に変化する社会において、目指す生徒の姿を実現するためには、大学や産業界の専門家を校内等に配置して連携を円滑にしたり、高度な知識や技術をもつ外部人材を講師として招聘したりするための予算の充実が必要である。」と示されていることから、県教育委員会では本事業の成果と課題を参考としながら「学校と産業界をつなぐコーディネーター」や「産業実務家教員」の設置に係る検討を令和5年度より始め、令和6年度より「産業教育コーディネーター」及び「産業実務家教員」を設置することとした。

【担当者】

担当課	高校教育指導課	T E L	082-513-4998
氏 名	小田 泰士郎	F A X	082-222-1468
職 名	指導主事	e-mail	koukoushidou@pref.hiroshima.lg.jp